

講義名	地域観光政策			授業形態	
担当教員	西井 和夫	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

### 主題と概要

都市再生や地域活性化の1手法である都市観光推進方策や地域観光振興策について、やみくもな増当たり的な方法(短期的で直感的な経営感覚に依る商品マーケティング)ではなく、対象都市・地域(エリア)に対する定量的マーケティング手法とともにエリア・マネジメントの考え方の導入を前提に、システマチックな手順に則った方法でアプローチする必要性を強調する。その意味で、すでに観光資源を有する都市・地域も、何も有していない都市・地域であっても、観光マーケティング作業者は、常に継続的(on-going)のタスクとして理解しなければならない。ブランドが確立した有名観光都市であっても同様としていると総合都市に出し抜かれる憂き目にあふ。ターゲットを絞った地道なプロモーション戦略が求められている。本講義では、まずAMA(Area Marketing & Management Approach)と称するエリア(観光地や都市観光の為に来訪都市)のエリア・マーケティングおよびエリア・マネジメントの基本的な考え方とそれに基づく観光マーケティング戦略/マネジメント戦略について解説する。ここで講義する手法は他の観光分野以外にも応用可能な汎用的な面を有している。君たちのスキルとなることと信じている。

### 到達目標

従来の観光地づくり・観光まちづくりの課題とは何か、商品マーケティングの延長としての観光マーケティングの問題点とは何かについての基本的理解ができるようになる。AMAの基本的考え方、エリア・マーケティングとエリア・マネジメントを包括的に捉えることの意義についての理解ができるようになる。エリア・マネジメントの基本的考え方、従来の企業(ファーム)マネジメントとの違い、DMO(Destination Marketing & Management Organization)とについての理解ができる。エリア・マーケティング(ブレイス・マーケティング)の基本的考え方、従来の商品マーケティングとの違いについての理解を深めることができるようになる。

### 提出課題

基本的に、各講義回の内容理解確認等のためにレポート課題が課される。また前半7回目、および後半15回目は、それぞれそれまでの数回分の講義内容に即した課題演習となっている。

### 課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

レポート課題は、基本的に次週に採点結果と合わせて返却し、全体的な講評や個別のコメントを付してフィードバックを行っている

### 評価の基準

下記の点数配分で評価する。  
平常点30%(講義への聴講態度・取組み)、講義内演習課題およびレポート課題70%

### 履修にあたっての注意・助言他

参考テキストやプリントに従っての連続的な積み上げ授業であるので、欠席はできるだけ避けること。定期試験期間中の試験はないので注意!

教科書	.使用しない。				
-----	---------	--	--	--	--

参考図書	.なし。				
------	------	--	--	--	--

その他	講義時に配布するプリント
-----	--------------

### 授業計画

- 観光地を取り巻く諸課題(1) 従来の観光地づくり・観光まちづくりの課題
- 観光地を取り巻く諸課題(2) 観光地交通と観光地形成、観光マーケティングの問題点
- AMAの基本的考え方(1) AMA(Area Marketing & Management Approach)とは?
- AMAの基本的考え方(2) エリアのマーケティングとマネジメントを包括的に捉える意義とは?
- エリア・マネジメント論(1) エリア・マネジメントとは?
- エリア・マネジメント論(2) DMO(Destination Marketing&Management Organization)
- エリア・マネジメント論(3) 事例紹介
- 前半部講義内容の理解度確認課題演習
- エリア・マーケティング(1) ツーリストのニーズ・ウォンツ分析と外部環境要因分析、SNOT分析
- エリア・マーケティング(2) 都市・地域(エリア)のイメージ構造: エリア(ブレイス)イメージ分析
- エリア・マーケティング(3) セグメント化・ターゲット化・ポジショニング:
- エリア・マーケティング(4) ツーリストの欲求充足構造
- エリア・マーケティング(5) パッケージング
- エリア・マーケティング(6) ブレイス・プランディング分析
- 後半部の講義内容の理解度確認課題演習

### 授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア:PBL(課題解決型学習)	イ:反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ:ディスカッション、ディベート	エ:グループワーク
オ:プレゼンテーション	カ:実習、フィールドワーク
キ:その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

### 準備学習(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

基本的には、毎回の講義内容への理解に応じて、予習・復習の必要性とその量・程度を各自で判断してください。そのためにも準備学習以上に、毎回の講義をしっかりと見て、講義を聴いていない学生には、準備学習は期待できません) 大学設置基準では、「2単位の講義では1回の講義について4時間の自己学習が必要」とされていますので、そのことを踏まえ、最近の本講義受講生にあっては、理解の不足部分(講義をしっかりと聴いていないため)について、予習・復習の合計がみっちり4時間が必要と判断されます。

### 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

シラバスの到達目標を達成することにより、経済学を基盤にして、複雑化する地域社会で生起する問題を読み解き、解決策を提案することができること。

### 双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

基本的には講義内の質疑応答等を実施している。ICTの利用・活用には非該当の科目のため計画していない

### 実務経験の有無及び活用

実務経験なし。実務経験の活用には非該当科目と位置づけられる

備考	
----	--